

2018年度 学部・研究科・専攻・センターにおけるFDの実施状況調査結果

— 2018.4.1～2019.3.31 回答集計 —

【ファカルティ・ディベロップメントの実施状況】

Q1. 2018年度のFD活動への専任教員の参加状況を回答してください。

Answer	専任教員数	参加教員数	
1 神学部	18	17	94.4%
2 文学部	72	67	93.1%
3 総合人間科学部	62	57	91.9%
4 法学部	31	27	87.1%
5 経済学部	29	27	93.1%
6 外国語学部	60	55	91.7%
7 総合グローバル学部	26	25	96.2%
8 国際教養学部	35	19	54.3%
9 理工学部	104	104	100.0%
10 神学研究科	13	13	100.0%
11 文学研究科	58	53	91.4%
12 実践宗教学研究科	7	7	100.0%
13 総合人間学研究科	46	41	89.1%
14 法学研究科	31	27	87.1%
15 法曹養成専攻	16	16	100.0%
16 経済学研究科	28	26	92.9%
17 言語科学研究科	34	33	97.1%
18 グローバル・スタディーズ研究科	70	52	74.3%
19 理工学研究科	102	102	100.0%
20 地球環境学研究科	11	11	100.0%
21 言語教育研究センター	41	41	100.0%
22 グローバル教育センター	11	9	81.8%

※サバティカル教員等を含まない

【学生による授業アンケートの実施状況】

Q2. 2018年度に学生による授業アンケートを実施しましたか。

Answer	A1. 実施した		A2. 実施していない		A3. その他
1 神学部	<input type="radio"/>				
2 文学部／文学研究科	<input type="radio"/>				
3 総合人間科学部	<input type="radio"/>				
4 法学部／法学研究科	<input type="radio"/>				
5 経済学部／経済学研究科	<input type="radio"/>				
6 外国語学部	<input type="radio"/>				
7 総合グローバル学部	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
8 国際教養学部	<input type="radio"/>				
9 理工学部/理工学研究科	<input type="radio"/>				
10 神学研究科		<input type="radio"/>			
11 文学研究科		<input type="radio"/>			
12 実践宗教学研究科	<input type="radio"/>				
13 総合人間学研究科		<input type="radio"/>			
15 法曹養成専攻	<input type="radio"/>				
17 言語科学研究科	<input type="radio"/>				
18 グローバル・スタディーズ研究科	<input type="radio"/>				
20 地球環境学研究科	<input type="radio"/>				
21 言語教育研究センター			<input type="radio"/>		日本語及び英語選択科目で実施
22 グローバル教育センター			<input type="radio"/>		グローバル教育センターの教員は、基本的に全学共通科目を担当しているため、全学共通科目の授業アンケートをもって改善の目安としています。

Q3. Q2で1.を選択した場合、授業アンケートの結果の取り扱いについてお答えください。
該当するもの全てに○印をつけてください。

	A1. 集計・分析結果を学外に公表	A2. 個々の教員の集計結果を学外に公表	A3. 集計結果を教員本人のみに提示	A4. 集計結果を教員のみを開示	A5. 集計結果を教員及び学生のみを開示	A6. 集計結果をホームページに掲載	A7. 集計結果を報告書等としてまとめ配布	A8. その他の方法で公表	A9. 公表していない
1 神学部					○				
2 文学部／文学研究科	○					○	○		
3 総合人間科学部	○		○			○			
4 法学部				○					
5 経済学部	○					○			
6 外国語学部					○			○ (在校生向けHPにPW付で公表+Loyola掲示)	
8 国際教養学部			○						
9 理工学部/理工学研究科						○	○	○ (個々の教員の集計結果は本人のみに開示)	
12 実践宗教学研究科				○					
15 法曹養成専攻				○					
17 言語科学研究科					○				
18 グローバル・スタディーズ研究科				○					
20 地球環境学研究科				○					
21 言語教育研究センター								○ (総括はHPで公表、個別の内容は英語・日本語カリキュラム委員会で共有)	

Q4. 認証評価で、授業アンケート結果を反映した取り組みが求められております。Q2で1を選択した場合、授業アンケートの結果を改革に反映させるための組織的取り組みは行われていますか。

Answer	A1. 行われている		A2. 行われていない		A3. これから実施予定	
1 神学部	<input type="radio"/>					
2 文学部／文学研究科	<input type="radio"/>					
3 総合人間科学部	<input type="radio"/>					
4 法学部	<input type="radio"/>					
5 経済学部	<input type="radio"/>					
6 外国語学部	<input type="radio"/>					
9 理工学部/理工学研究科	<input type="radio"/>					
12 実践宗教学研究科			<input type="radio"/>			
15 法曹養成専攻	<input type="radio"/>					
17 言語科学研究科			<input type="radio"/>			
18 グローバル・スタディーズ研究科	<input type="radio"/>					
20 地球環境学研究科	<input type="radio"/>					

Q5. Q4で1. を選択した場合、特色ある組織的取り組みがありましたら、具体的に記述してください。

1	神学部	学年末に実施される教員合宿(自己点検・評価委員会)にて検討している。
2	文学部	これまで担当教員、学科長、学部長が改善策を含むコメントを指示書に記載するとともに、文学部FD委員が教授会で全体の結果を報告する形をとってきた。さらにFD研修等につなげていく試みも考えたい。
3	総合人間科学部	教員ごとの改革の取組みを学科ごとに共有した後、学部単位のFD委員会にて共有し、その長所短所について議論している。
4	法学部	「演習」科目に関する学生の意識・要望等調査を行なった結果、2019年度カリキュラムより、「基礎演習」(2年次秋学期)を開設することとなり、1年次の「導入演習」、3年次の「選択演習」、4年次の「必修演習」とあわせて、全学年を通して「演習」科目を設置し、少人数教育の推進を図った。同時に、1年次の選択科目に「法解釈基礎」を2019年度より新設し、より法学の基礎的理解を深めるカリキュラム変更を行なった。
5	経済学部	・RAが授業アンケートを集計し、自由記述を含め結果を各教員へフィードバックしている ・学部内に学部長、学科長、研究科委員長、FD委員で構成する学部内FD委員会を設置しており、授業アンケートの結果や教授会での意見聴取を踏まえてFD活動を計画している。
6	外国語学部	アンケート結果をとりまとめ、教授会において教育計画委員会が適宜報告している。
9	理工学部/理工学研究科	授業アンケート結果に基づき、理工学部自己点検評価委員会がアンケート評価の高い教員を選考し、顕彰を行っている。 2018年度は、2017年度秋学期及び2018年度春学期のアンケート結果に基づき、学期ごとに5人、計10人の受賞者を決定し、2018年12月18日の教授会開催前に表彰式を実施した。 この顕彰制度を取り入れることにより、学部・研究科全体として、授業改善への意識向上を図っている。
15	法曹養成専攻	アンケートでは受講した授業のうち良いもの・悪いものを挙げて自由記述をしてもらい、全ての記述をFD委員会で全教員で共有した。また、良い取り組みと思われるものについて、教員に報告をお願いし、他の授業での実施可能性や課題について検討した。 学生の実感に基づいてカリキュラムが混んでいる曜日や時間帯を特定し、学生の学習スケジュールがよりバランスの取れたものとなるように授業配置の調整を行った。
18	グローバル・スタディーズ研究科	カリキュラム内容検討時に反映させるよう努めている。
20	地球環境学研究科	自由記述への回答(学生からの要望)を研究科FD委員会で協議するとともに、実現可能などころから実施している。

Q6. ファカルティ・ディベロップメントについて、学部・研究科として何かご意見がありましたら、お聞かせください。
また、FD委員会主催のFD講演会等にご要望がございましたらお聞かせください。

2	文学部	他大学におけるアカデミックライティング教育の実践例が知りたい。(早稲田大学ライティングセンターなど)
3	総合人間科学部	心身に問題を抱えた学生や外国人の学生に対する配慮や学内他部署との連携体制についての説明を全学的(または学部単位で)に行ってほしい。
5	経済学部	FD活動を通して実施が望ましいと認められた活動(例 試験監督をつけての中間テスト・クイズの実施など)であっても、それらの活動を行う予算がないのが現状である。これらの活動を行うための費用をFD予算、その他予算から支出できることが望まれる。
6	外国語学部	FDセミナーなどに学部の教職員がより積極的に参加できるようにしたい。
8	国際教養学部	授業評価アンケートについては、「先進国」とも言えるアメリカでは教育の質の向上につながらない、あるいはかえって低下させるとの議論や研究もなされている。本学においても多角的な再検討があっただけでいいのではないか。
9	理工学部/理工学研究科	理工学部・理工学研究科では、所属教員に対し、年度ごとに「活動報告」の提出を求めている。 2017年度活動報告は2018年4～5月に実施し、提出された報告書は、2018年6月に理工学部公式ホームページに掲載し、学内外に広く公開している。 活動報告の項目に、「6. 教育活動の自己評価(担当した主な授業科目について、授業アンケートの結果や試験、演習、レポート等の採点結果及び分布等を基に自己評価し、工夫した点に対する効果や今後の改善点等について記入してください。)」を設け、教育一人ひとりの授業の振り返りの機会としている。 当該ページのURLは、次のとおり。 http://www.st.sophia.ac.jp/FDreport/
11	文学研究科	特に要望はありません。5時限目の授業開講数の増加にともない、日程の設定に難しさを感じたり、FD研修会に多くの出席者が見込めないなどの問題が生じていることをご理解いただければと思います。
18	グローバル・スタディーズ研究科	1. FDは必要であるが、学部と研究科両方に所属する教員は、大学主催企画も含めて参加することに疲弊しつつあるような印象を受ける。 2. FD出席者の把握は、紙ベースではなく、身分証明書証(IDカード)をカードリーダーで読み取る等の対応を早急に導入してもらいたい。今回のように出席者をエクセル一覧として作成する作業の手間は、他の仕事に使ってもらいたい。手作業には間違いもある。
22	グローバル教育センター	グローバル教育センターでは、毎月、月末の金曜日に、FDランチトークと称して、専任の教員がランチを共にしながら、授業の改善方法についてそれぞれの取り組みを共有したり、問題のある学生への対応方法などについて、情報共有を行う取り組みを続けています。具体的な情報交換ができ、とても有意義と感じています。 また2回行ったFD研修会では、それぞれ外部講師の方をお招きして、1)スタディツアーの実施に関する情報の共有や、様々な教訓を学びあったり、2)若者相手のキャリア形成を専門とするコンサルタントの方をお招きして、学生が今どんな授業を求めているのかについて率直な意見を聞いたりして、自分たちの授業を改善する上でとても参考になりました。 さらに、それぞれのセンターの先生の授業を相互に見学する活動も行い、他の先生がどのような工夫をしながら授業を行っているかを、実際に見る機会も作りました。こうした機会は、自らの授業を改善する上で、非常に役に立ったと考えています。